

令和2年度学校経営構想図

自分も仲間も大切にできる学校

- 子どもの生活背景、保護者や子どもの思いを丁寧につかむ。
- 子どもの自尊感情・自己有用感を高める教育活動。
- 自分も他者も大切にできる心情を育み、いじめや差別を許さない人権感覚を養う。
- 教師自らも、絶えず人権感覚を磨く。

学び合う学校

- 「めあてと振り返り」のある学習形態を全ての活動に。子どもの学力・学習意欲の向上
- 「主体的、対話的で深い学び」に向けて、児童の実態に応じたグルーピングの工夫、対話で深めることができる課題の選定等、子どもどうしが学び合える学習の組立。
- 子どもが伸びるとき（授業で・活動で・地域で・コミュニケーションで・家庭で）を意識した学習内容。子どもたちとともに成長を確認し合える取組。
- 「やった」を実感できる授業、「やり方」を身につける授業、「やる気」を引き起こす授業

安心・安全な学校

- チャイム（時間）を守ることで、時間を大切にす気持ちや、行動を切り替える力を育てる。
- 誰に対しても明るくあいさつや返事をする事で、人とつながる力を育てる。
- 人権学習・道徳・日々の子どもたちとの関わりを通して、人の気持ちを想像する力や共感する力を育て、思いやりのある行動がとれる取組。（梅小のチャアオ）
- 問題行動を罰するのではなく、「ポジティブな行動支援」（Positive Behavior Support）という発想に立ち、望ましい行動を育てる。表出する問題行動の要因を探り、その要因を取り除くことに努める。

《学校教育目標》

なかまと力を合わせて幸せを創り出せる子どもの育成

《めざす子ども像》

★認め合える子

★学び合える子

★自ら行動できる子

ユニバーサルデザインの学校 （特別支援教育の視点）

- 子どもたちが不安なく学習に取り組めるように、全ての教育活動で「見通し」と「ゴール」を示す。
- 子どもたちが、学習に集中できるよう、不要な刺激の排除、視覚支援、備品配置の工夫、教室の整頓など、学習環境の整備。
- 全ての活動において「一指示一行動の原則」を意識し、スモールステップで、その都度達成感を味わえる工夫。
- 一人ひとりの子どもの特性を丁寧に把握・共通理解し、状況に応じた適切な指導。
- 子どもたちがお互いの一人ひとりの良さや苦手なことを知り、それをわかった上で、ともに高め合える学習集団の育成。

地域とともにある学校

- 保護者・地域の教育力を積極的に学校教育に生かす。
- 保護者や地域に学校の情報を提供し、学校に対する理解と協力を求める。地域活動にも協力する。
- 学校評価を実施し、教育活動の充実をめざす。
- 名張中学校区小中一貫教育目標「地域とともに豊かな人間性を育む小中一貫教育」の実現に向けて、校区小中学校との連携を図る。

教職員の満足度を高められる学校

- 教職員どうしの支え合いを基盤に、一人ひとりが自らの力量を高める。
- 教職員の心身の健康の保持に努める。
- 職員会議・研修会の日を、定時退校日とする。
- ノー残業デイの設定。
- 通常の会議は1時間30分以内。資料等は事前配布。
- 総勤務時間の縮減に努力する。
- 休暇の取得の増加に努める。
- 学校安全衛生委員会を定期的に実施。